平成２２年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立成沢小学校　教諭　武藤　里佳

１　派遣期日　　平成２２年８月９日（月）

２　研 修 先　　会場名　　　日比谷公会堂

　　　　　　　　所在地　　　東京都千代田区日比谷公園１－３

　　　　　　　　http://hibiya-kokaido.com/（日比谷公会堂）　　http://nikkoku.org/（日本国語教育学会）

３　研修内容

> 創立４０周年記念　　第７３回国語教育全国大会
> 研究主題　　「豊かで確かなことばの力をはぐくむ国語教育の創造
> －学び手の言語生活が充実する単元学習の展開－」

（１）提案授業

①授業者　　筑波大附属小　青木　伸生先生

②児　童　　筑波大附属小　３年生

③単元名　　「とんぼ図かん」をつくろう

④単元のねらい

・「とんぼ図かん」をつくることを通して，とんぼに関する説明文を読み，さまざまな文章の構成について学ぶことができる。

・「とんぼ図かん」をつくることを通して，とんぼの登場する詩，短歌，俳句などを集めて，その作品世界をイメージして絵に書き表すことができる。

⑤本時の指導

ア　目標　　◎とんぼが描かれている二つの詩を読み，似ているところや違うところを見つける。

　　　　　　○作品に使われている言葉の意味を確かめ，語彙を増やす。

イ　展開

とんぼのめがね
額賀　誠志

とんぼのめがねは
水いろめがね
青いお空を　飛んだから
飛んだから

とんぼのめがねは
ぴかぴかめがね
おてんとさまを
見てたから
見てたから

とんぼのめがねは
赤いろめがね
夕焼け雲を　飛んだから
飛んだから

赤とんぼ
三木　露風

夕焼け小やけの赤とんぼ
負われて　見たのは
いつの日か

山の畑の　桑の実を
小かごに　つんだは
まぼろしか

十五でねえやは嫁に行き
お里の　たよりも
たえはてた

夕焼け小やけの赤とんぼ
止まっているよ
さおの先

学習活動	指導上の留意点	実際の授業での児童の発言
１　「とんぼのめがね」を読み，書かれている内容を確かめる。 ・詩を読んで，同じ表現には赤い線を，違う表現には青い線を引く。 	・それぞれの連で描かれているとんぼのようすについて想像させる。	T:「同じところはどこ？」 C:「とんぼのめがねは」 C:「それぞれの連の２行目の『めがね』。」 C:「『～を』と『～から』。」 T:「『～から』って何の『から』？」 C:「理由。」 T:「違うところはどこ？」 C:「一連と三連の二行目は，『水いろ』『赤いろ』なのに，二連では『ぴかぴか』で色じゃない。」
２　「赤とんぼ」を読み，書かれている内容を確かめる。 ・「赤とんぼ」を読んで，同じ表現には赤，違う表現には青い線を引く。	・作品のイメージを，赤（明るい・元気などのプラスイメージ）と青（悲しい・寂	(共通点や相違点について，意図する発言が児童から出なかったため，教師主導で，児童の意見を吸い上げながらの授業展開になる。) T:「(一連目)『おわれてみた』って誰がおわれたの？」

   3　それぞれの作品を絵に表すとしたら，どのような絵になるかを考える。 （１）全体で話し合う。 （２）制作途中の「とんぼ図かん」を紹介する。 	しいなどのマイナスイメージ）に分けてとらえるようにする。 ・必要に応じて，他の作品も紹介する。	C:「とんぼ。」 C:「『おんぶされて』って意味だから，作者。」 T:「二連では，作者はおんぶされるくらい小さいんだね。じゃあ，おんぶしているのは誰？」 C:「三連で，『ねえや』って出てくるから，ねえや。」 T:「『ねえや』ってだれのこと？」 C:「ベビーシッター。よそから来た人。」 C:「自分のお姉さん。」 T:「一連と四連で違うところってなんだろう。」 C:「一・二・三連は昔のことで，四連は今のことだから違う。」 T:「『とんぼのめがね』は，何枚の絵を描く？」 C:「３枚。（とんぼの眼の）色ごとに。」 C:「３枚。（一連目の）『水いろ』は朝，（二連目の）『ぴかぴか』は昼間，（三連目の）『赤いろ』は夕方を表しているから。」 T:「『赤とんぼ』は，何枚の絵を描く？」 C:「時間の流れで描くから，４枚。」 T:「歌にすると，どんな違いがある？」 ・「赤とんぼ」…寂しい，まったり，ゆったり，テンションが低い，大人向け，何年ものことについて描かれている ・「とんぼのめがね」…元気，はきはき，テンションが高い，子ども向け，１日のことについて描かれている

（２）授業についての協議　　　授…授業者　　参…参観者

参　「赤とんぼ」の情景のように，今の子どもと昔の子どもの生活観の違いを縮めるための指導はどうしているのか。

授　読解を目標としていないので，必要以上にはしていない。

参　授業で作った図鑑は，今後どのように扱うのか。

授　図書室に置き，案内文をつけて多くの児童に見てもらう。

参　「とんぼ図かん」を作ろうとした流れはどういったものか。

授　１年生の時から学校のプールでヤゴ捕りをし，何種類かのトンボを羽化させた。飼育の仕方を調べ，トンボの暮らしぶりを観察し，育てた体験を図鑑という形で表そうと考えた。

4　感想

子どもたちがいきいきと授業に取り組んでいる様子にとても感心し，語彙の豊富さに驚かされた。児童の発言の中には，「字数」「音（おん）」「連」という語句が出てきて，詩の構成を大まかにとらえることができていた。また，「赤とんぼ」の「負われていた」という部分を，多くの児童が「背負われていた」と認識しており，語句の意味を正しく理解していた。今回の授業では，筑波大附属小の３年生にとって，トンボがなじみ深い虫であったために，児童も課題に意欲的に取り組んでいると感じた。また，語彙力が身についているために，現在と違った生活観の内容も理解し，２つの詩の情景を想像することが可能になったのだと思った。授業の終末に，２つの詩の感覚的な違いを言葉でうまく表すことができていたのは，日頃からの言語に対する指導が素晴らしいからであろう。今後は身近な素材を授業に取り入れ，児童の言語生活を充実させるような取り組みをしていきたいと改めて感じた。